

事業常任委員会視察報告会 要点記録

日時 平成 29 年 12 月 21 日（木）13:00～

場所 岸和田市役所 第一委員会室

出席者 委員長 松本 妙子

副委員長 反甫 旭

井舎 英生

稲田 悦治

鳥居 宏次

中井 良介

米田 貴志 （五十音順）

視察の行程・調査事項について

○10 月 19 日（木）

山口県山口市：地域公共交通について

○10 月 20 日（金）

広島県尾道市：空き家の再生、利活用及び空き家対策について

NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト：空き家の再生及び利活用について

発言要旨

山口県山口市

- できる限り市民の意見を反映し、計画の検討段階から市民とともに考えて、市を 11 ブロックに分けて地域検討会を開催。意欲ある町会と月 1 回ペースで勉強会を開催。また、交通まちづくりは事業者の理解が不可欠と計画の検討段階から事業者とともに考えて進めた。
- 地域公共交通に関しては、地域性や課題もそれぞれ違うので一概に言えない部分もあるが、参考になった点は住民が主体となっている点である。そのことで課題の把握や調整もスムーズになると思うので本市においても行政と住民のつながりを強化していただきたい。
- 交通計画の基本理念である「市民の移動手段は、交通事業者や行政だけでなく、市民の皆様とも一緒に、みんなで協働して創り育てる」という考え方を理解していただくまでに時間を要したとのことであった。
- 本市においても交通の便が悪い地域は、今後の岸和田のまちづくりをどのように描くのかによって大きな影響があると思われる。将来のまちづくり像を明確にして本市に相応しい公共交通システムの構築を願う。
- こうした山口市の交通政策への取り組みは、市民生活を大切にコミュニティの活性化にも大いに効果があると考ええる。その反面、事業者の赤字補填、コミュニティバス、タクシー、グループタクシーへの財政負担が年間 4 億円近くかかっているとの説明があり、

事業常任委員会視察報告会 要点記録

今後、本市への導入については、慎重に検討しなければならないと思った。

- 本市でも公共交通の充実の要望は強い。求められるのは、高齢者のための買い物や通院、鉄道駅までなどの市街地を細かく走り、また地域と市街地を結ぶコミュバスやタクシーだと思う。合併した旧町を持たない本市では地域主体の実施は難しく、タクシー利用券は有効だろう。また、地域主体の実施にしても、山口市の地域の合意をはかる努力は参考になる。
- 山口市の公共交通の取り組みは、市民と民間事業者、そして行政がそれぞれ役割分担を行い、基幹交通とコミュニティ交通を連結させながら、見事に構築されているが、それらを維持運営するには地域力が問われ、相当の覚悟と実行力ある人材確保と事業費が必要となることを学んだ。

広島県尾道市

- 本市でも高齢者や低所得者など、家賃が払えず、住むところに困っている方はたくさんいる。空き家を利活用できる方策も考えていくべきではないかと思う。
- 空き家に関しては所有者、事業者に係る部分もあるので行政としてもしっかり対応できるよう施策の推進に取り組んでいただきたい。
- NPO法人代表の豊田雅子氏の空き家に対する情熱と冷静沈着な行動が、尾道市の空き家利活用プロジェクトの推進エネルギーだろうと感じた。
- 今回のお話を聞かせていただき、豊田雅子代表の熱意と本気度に圧倒された。設立当初からのミッション、目標を着実に達成され、その都度、新たな目標に挑戦されている。楽しみながら、真剣に取り組んでいる。これまでの活動を通して、コミュニティ活動の拠点づくり、カフェや簡易宿泊所等の営業による雇用の創出、尾道式空き家再生術を駆使したアイデア満載のリノベーションにより付加価値が上がることで、若者を中心とした移住者、定住者の増加にもつながっていると思う。
- 本市でも歴史や文化を基にした観光資源の発掘が可能であることから、空き家対策を実施するための人材育成が最も重要であると考える。
- 豊田代表とNPOから何を学ぶか。この人がいてこそ、こんなことができるというしかない。やはり、行政だけではできない。しかし、岸和田にもこんなことをやってみたいという人はいるだろう。行政が柔軟な発想で人材を発掘して支援する。そんな試みをやってみてはどうだろうか。
- 今後、行政代執行がなされたとしても、その費用回収が難しいのではないか。また、それを円滑に進めるための方法が課題であり、その手前で、自主的に所有者が除去できるように推進することも課題である。

以上